私の好きな本

宮崎生協病院
内科医師　永友　英之

「日本文学史序説」（上、下）

（加藤　周一 著）

今までに読んだ本の中で「好きな本」は山ほどある。「好きではない本」以外は全て好きな本だ（とヘーゲルが言ったか言わないかは分からない、などと書けばこんな当り前のことが深く聞こえるかもしれない）。だけど、本当に好きな本は何度でも読み返したくなる本だと思う。私にとっては、以前このコーナーで紹介した阿部謹也の「ハーメルンの笛吹き男」や北村薫の〈私〉シリーズは間違いなくそういう本である。マンガでは「四月は君の嘘」や「Blue Giant」などがそういう本だ。マンガを読んでも音は聞こえないのに、なぜか音楽をモチーフにしたマンガは好きなのだ。ただ、残念ながらマンガの読書量は多くない。

加藤周一（1919-2008）の「日本文学史序説」もそういう本だが、読み返したくなる状況は少し違う。本の紹介からすると、「序説」と書いているのに千頁以上もある本で、古代に始まり、第二次世界大戦後に至るまで膨大な書物が提示される。文学だけでなく、思想書・宗教書・歴史書・農民一揆の檄文（！）に至るまで、その射程は空前と言ってもいいほどに広い（多分）。それを駆使して、日本人の心の奥底、固有の土着的世界観がどのようなもので、どのように変化してきたものなのかを、加藤なりの仮説に基づいて検証していく。その仕事は文学者のものというよりも、自然科学者のものに見える（こういう書き方をすると、おそらく加藤は「文学者と自然科学者の間に本質的な違いはない。学者としてのレゾンデートルは同じだ」などと難しい横文字を交えながら語るに違いないのだが）。

たとえば、加藤は「日本人は、月は見ていたが、星はほとんど見ていなかったのではないか」と仮説を立てる。そして、「建礼門院右京大夫集」で平清盛の娘に仕えていた作者が、平家滅亡後に「月をこそながめ馴れしが星の夜の」「こよひはじめてみそめたる心ち」と書かれているのを見て、『星を見る文化は女房社会の中にはなかった』、と喝破する（上326頁）。また別の箇所では、江戸末期の芸術家たちの芸があまりにも完成していたため、「開国」にも「維新」にも反応しなかったことを、三遊亭円朝の「怪談牡丹灯籠」の中に政治的な状況が一切反映されていないことから類推する。『幽霊は「尊王」でも「攘夷」でもなく、「八ツの鐘がボーンと不忍の池に響く」頃、「カランコロンと駒下駄の音高く、常に変わらず牡丹の花の灯籠を提げて」恋人のところへ現れることしか考えていなかった。』（下238頁）と書かれているが、これは加藤が本気で書いたのか、洒落のつもりで書いたのか、未だに私の頭を悩ませる部分である（惜しいことに、加藤亡き今、その答えは永遠に分からないのだが…）。

私は自分の脳に刺激を与えたいときに、無性にこの本を読みたくなる。どの頁をめくっても、加藤の知性と個性にあふれた本である。空海、菅原道真、紫式部などの天才性が書かれる一方、ここで紹介するのは控えるが、かなり評価の低い文学者もいる。極論を恐れないところが、私みたいな素人でも楽しく読める理由だと思う。興味があればご一読を。

私の好きな本　番外編

表に出なかった好きな本

今回はもう少しスペースがあるということで、私がこのコラムに登場させられなかった本を粗筋と、書けなかった理由とともに箇条書きで書いていきたい。今回は気楽に、手元に文献も辞書もない状態で書いているので話半分で読んでほしい。

1. **「ペスト」**（カミュ著）　最近売れている本。もちろん名著なのだが、新型コロナ後から売り上げが激増。あまりに有名になりすぎて、新聞や週刊誌で山ほど書評が書かれたため、他の書評と比べられると私の薄っぺらさが分かってしまうと思い断念。同じ理由で「君たちはどう生きるか」（吉野源三郎著）も断念。

2. **「転生して、すいません」**（佐藤友哉著）　太宰治が二〇七年の東京に転生して、モテて、心中して、自分だけ生き残って、メイドカフェで踊り、芥川賞のパーティでつまみ出され、芥川賞を欲し、才能を爆発させ、生きるという、あきれるような驚愕の内容の本。期待して読んだわけではなかったが、意外と（失礼！）作者は太宰を読み込んでいるし、太宰への愛が感じられ、お得感がある。作者の他の本を読んでいなくて、内容を広げられずに断念。

3. **「モオツァルト・無常という事」**（小林秀雄著）　小林批評美学の集大成（と言われている）。私は小林と波長が合うようで、古い本だが結構おもしろく読んだ。小林は突然考えが降りてくることがあることを知り、私も「小林秀雄はイタコの子孫ではないか」という考えが突然降りてきた。私なりに調べてみたが、その考えを証明できず断念。

4. **「日本辺境論」**（内田樹著）　ここ十年の間、最も読んだのは内田の本だと思う。一冊は書いてみたかったので、チャレンジしたが、内容が理屈っぽくなりすぎたのと、最後のオチを思いつかずにボツとなった。内田へのアプローチの仕方としては、ブログ（内田樹の研究室）を読んでみて、興味が湧いたら一冊手に取るような感じがいいと思う。ただし、内田樹は中毒になる人がいるので要注意。

5. **「牧水の恋」「サラダ記念日」**など（俵万智著）　書こうかな、と考えてみたのだが、短歌に対する私の知識があまりにも乏しいことと、個人的に何回か著者を実際にお見かけしたことがあるため、書評を書くなど恐れ多くて断念。彼女の本はもちろん好きだ。個人的には「プーさんの鼻」がいい。ちなみに「牧水の恋」における若山牧水の足跡のたどり方が北村薫を彷彿とさせるところがある。ともに高校教師をされていたのと関係があるのか、出身大学（早稲田大学第一文学部）にそのような伝統があるのか。二人を結ぶキーワードは佐々木幸綱？などと、勝手に想像してしまう。

6. **「資本論」**（カール・マルクス著）、**「父が子に語る世界歴史」**（ネルー著）　ともに膨大すぎて千字程度ではとても書けずに断念。ただし、担当者からの原稿依頼はいつも四～五百時程度である。担当者にはいつも迷惑をかけていると思う（本当に迷惑をかけているのは〆切であって、字数ではない、との声が聞こえてきそうだが…）

看護師のこぼれ話

宮崎生協病院　3階病棟　長尾侑奈

月日が流れるのは早いもので、入職してからあっという間に１年が経ちました。いつの間にか後輩もできて少し焦りを感じている毎日です…。

さて、世界中で猛威をなしているコロナウイルス感染ですが、日本では緊急事態制限が解除され少しずつ落ち着いてきました。しかし、病棟ではマスクやエプロン等の物品不足が続いており、いつまで続くのかなと心配しています。マスクが週に３～4枚配給されるなどつい最近まで思ってもいませんでしたが、もう少し我慢が必要そうです。我慢といえば、面会制限や外出制限がされている患者さんは日々我慢を強いられています。「そうだよね。面会ダメだよね。」と寂しそうな顔をされる患者さんをたくさん見てきましたが、家族にも会えず病棟外にも出られない狭い空間で療養を続けるというのは大きなストレスになっています。看護師としてより一層患者さんの心のケアを行っていきたいと思います。

皆さんはストレスを溜め込んで塞ぎ込んでいたり、体調を崩したりしていませんか。私は野球観戦や登山、蕎麦屋と温泉巡り等、おじさんのような趣味(全国のおじさん方すみません…)がありますが、可能なことから楽しんでストレス発散したいと思います。自身のケアも怠らないように気を付けましょうね。

私のススメ

本／DVD／音楽etc紹介

「趣味のススメ」

宮崎医療生協／小児科事務
黒木　梨菜

私は宮崎生協病院に入職して3年目になりました。

仕事も徐々に慣れてきて、現在は小児科の事務として毎日可愛い子どもたちに囲まれて楽しく働いています。

そんな私ですが休日は家でゴロゴロすることが多かったので何か趣味を見つけようと思い、フラワーアレンジメントに行き始めました。

ブリザードフラワーを使ってハーバリウムなどの作品を作っています。

ハーバリウムはボールペンや印鑑など仕事で使えるものを作ったので、仕事の合間にも時々眺めてはニヤニヤしています。

その他にも、母の日にプレゼントを作って渡したり友人への贈り物として渡したりするととても喜んでもらえます。

細かい作業ですが、色とりどりの花を見ていると気分も上がってストレス発散になっています。

私はハーバリウムアレンジしかできないので、上級者向けのブーケなどもいつか作れるように女子力を上げていこうと思います。

手先が不器用な私でも気軽にできたので、皆さんもぜひ挑戦してみてください♪